週間情報

№2824
発行日　平成28年6月28日
発行所　全国消防長会
　　一般財団法人全国消防協会
担　当　企画部企画課　電話 03(3234)1321

両会の動き

◆　法制執務研修会を札幌市において開催

全国消防長会

全国消防長会は、平成２８年６月２２日（水)、札幌市中央区のロイトン札幌において、北海道支部の協力のもと、同支部内において渉外を担当している職員等に対し、消防本部内のリスク管理やコンプライアンスの充実を図るため、全国消防長会顧問弁護士である木下健治氏を講師に迎え、法制執務研修会を開催しました。

研修会では、「消防関係判例１００」及び「消防行政相談事例集」（一般財団法人全国消防協会発行）を用いて、災害活動業務、指令業務、予防業務、さらには情報公開やパワーハラスメントに関する判例等について講義していただきました。

この研修会は、今年度から新規事業として開催したもので、当日は３７消防本部６０名の消防職員が参加しました。また、研修会の後には、東京海上日動火災保険株式会社の担当者から消防職員賠償責任保険等の保険についての説明も併せて実施しました。

今後の予定としては、九州支部（７月２９日・鹿児島市)、東北支部（８月８日・仙台市)、中国支部（１０月２１日・出雲市）からの依頼により実施することとしております。

【研修会の様子】

消防本部の動き

行　　事

◆　４機関がタッグを組み「安心・安全な街づくり」のため駅前繁華街の夜間特別査察を実施

柏市消防局（千葉）

柏市消防局旭町消防署では、平成２８年６月２日（木)、柏駅前繁華街の雑居ビルを対象に夜間特別査察を実施しました。

今回の特別査察は、安心・安全な街づくりを地域一丸となって実現するため、消防や警察、市役所更には地元商店会がタッグを組み、消防用設備、避難経路及び火気器具等の維持管理状況をそれぞれの目線に立って検査することで、見落としなく細かな査察が実現でき関係者への予防意識向上に効果が上がったものと思われます。

また、街を行き交う人たちが職員に声掛けする場面も多く関心の高さが伺え、消防活動を広くアピールするための一助にもなりました。

今後も４機関で連携を密にし、多方面にわたり協力していける態勢を築いていけたらと考えます。

【査察の様子】

◆　さいたま市少年消防団入団式を挙行

さいたま市消防局（埼玉）

さいたま市消防局では、平成２８年６月４日（土）、さいたま市防災センターにおいて、さいたま市少年消防団入団式を挙行しました。

今年度は新たに８０名の団員が入団し、総員１６０名で防火防災に関する活動にあたります。

入団式では保護者等が見守るなか、ステージ上において新入団員一人ひとりに団員証が手渡されました。

今後は、各区での活動や１０区合同で実施する県外研修、消防出初式への参加等、これらの活動を通じて、将来に向けた防火防災意識の高揚を図っていきます。

【入団式の様子】

◆　八女市少年消防クラブ大会を実施

八女消防本部（福岡）

八女消防本部では、平成２８年６月５日（日）、本部庁舎において、八女市少年消防クラブ大会を実施しました。

今年度は新たに３０名のクラブ員が加入し、総勢６０名となりました。

大会式典前には、消防の規律と礼式を学び、大会式典ではクラブ員らしい大きな声が会場に響き渡りました。大会後は、地震について勉強し、ダンボールを使用しての避難所設営訓練を行いました。各班様々なアイデアが飛び出し、過ごしやすい避難所が完成しました。また、ダンボールでベッドを作ると、その寝心地の良さに興奮した様子でした。

４月に発生した熊本地震により、八女市では震度５弱を観測したことで、クラブ員の地震災害に対する関心は高く、熱心に取り組んでいました。今回の訓練を通して、地震に対しての知識を学ぶとともに、発災時の行動、チームワークの大切さを知る良い訓練となりました。クラブ員はこれから２年間の活動を通して、防災についてさらに深く学んでいきます。

【完成した避難所での様子】

【記念撮影】

訓練・演習

◆　大規模工場への安全教育講習会を実施

太田市消防本部（群馬）

太田市消防本部西部消防署では、平成２８年５月２１日（土）、当署体力錬成施設において、管内の大規模工場職員に対する安全教育講習会を実施しました。

この講習会は、当該工場内においての火災における負傷者が発生したことに伴い実施したもので、最初に「大規模工場に潜む危険性」と題して消防職員による防火防災講演を実施し、他地区での工場火災及び機械事故事例を中心に、危険物施設災害の脅威を紹介する内容において、防災意識の強化及び風化防止等、注意喚起を行いました。その後、仲間や家族等の「大切な命を救う最初の一歩」となるようにと、応急手当指導員によるＡＥＤ取扱等の講習を行いました。

今後も、防災意識の高揚に向けた取り組みを継続してまいります。

【講習会の様子】

◆　危険物安全週間に伴う消防演習を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁石神井消防署では、平成２８年６月７日（火）、西武バス㈱上石神井営業所において、危険物安全週間に伴う消防演習を実施しました。

「給油中のバスのエンジンから出火、車内にいた清掃員１名が逃げ遅れた。」との想定のもと、自衛消防隊が１１９番通報や初期消火を行い、その後、到着した消防隊と石神井消防団第１０分団が連携して、消火活動や逃げ遅れた方の救出活動を行いました。

移動手段として身近なバスですが、昨年末から全国各地でバスからの出火がニュースになっています。乗客の避難誘導や初期消火等、バス運転手を含めた従業員の初期対応訓練の積み重ねが非常に重要なことから、参加した自衛消防隊員からは「毎日のバス点検はもちろん、日頃の訓練もしっかり行います。」との声が聞かれました。

また、消防演習終了後、西武バス㈱上石神井営業所に対し、危険物保安功労の表彰状が贈呈されました。

【演習の様子】

【表彰の様子】

◆　危険物施設（化学工場）消防署合同消防訓練を実施

丹波市消防本部（兵庫）

丹波市消防本部では、平成２８年６月８日（水）、危険物安全週間にあわせて、事業所における自主保安体制の確立を呼び掛け、事業所職員に危険物に関する意識を高めていただくことを目的に市内の事業所と消防合同訓練を実施しました。

危険物を取り扱う工場内で火災が発生したとの想定で、事業所の自衛消防隊が本番さながらに訓練に取り組み、消防署各隊との連携を確認しました。

今後も、火災を未然に防止し、災害発生時には迅速かつ的確に対応することで、被害を最小限にとどめられるように、事業所との連携強化を図ります。

【訓練の様子】

◆　危険物安全週間中に合同訓練を実施

野田市消防本部（千葉）

野田市消防本部では、平成２８年６月１０日（金)、危険物安全週間中にサカタインクス株式会社東京工場において事業所職員、消防職員合わせて約２６０名が参加し、危険物火災合同消防訓練を実施しました。

訓練は、直下型地震が発生したことにより事業所内の危険物倉庫から火災が発生したことを想定し、事業所職員による緊急作業停止訓練、１１９番通報、初期消火、避難誘導、情報伝達訓練などを行い、消防本部は危険物火災に対応する化学車等の部隊が出動し、泡消火剤を用いた消火活動、建物内に取り残された人命救助訓練などを行いました。

今回の訓練で、地震発生時の事業所の迅速な初動対応、適切な初期消火活動、消防本部との連携活動の重要性を再確認し、危険物火災に対する消火活動の技術の向上を図ることができました。

【訓練の様子】

◆　危険物施設における消防訓練を実施

浦安市消防本部（千葉）

浦安市消防本部では、平成２８年６月１１日（土）、全国危険物安全週間にあたり、危険物を管理している事業所と合同で、実災害時の消防活動技術の向上及び連携強化を図るための訓練を実施しました。

訓練は「タンクローリーの単独事故により危険物の流出、出火」を想定し、大型水槽車を含む３台で泡消火を活用した訓練を実施しました。想定訓練終了後は、消火器取り扱い訓練及びＡＥＤの取り扱い訓練、意見交換会後、移動タンク貯蔵所の構造説明が行われました。

訓練会場を提供した(株)日輪浦安センターの関係者からは、「消防との合同訓練は、初めてなので有意義で良かった。」と講評をいただき、連携を高めることができました。

【訓練の様子】

◆　ＪＲ上尾駅での初動対応訓練に参加

上尾市消防本部（埼玉）

上尾市消防本部では、平成２８年６月１４日（火）、埼玉県上尾警察署とＪＲ上尾駅が共同開催する群衆事故における初動対応訓練に参加しました。

訓練は、ＪＲ上尾駅において、朝の通勤時間帯にＪＲ高崎線が運行停止したことで、駅構内及びコンコース内に利用者が滞留し、火災、負傷者が発生した想定です。

警察官による放火犯の確保など現場さながらの緊張感あるなか、警防隊による消火訓練、救急隊による負傷者搬送訓練を実施しました。また、駅構内で突発事故が発生した際の連携についても再確認することができました。

上尾市消防本部では、今後も警察、ＪＲとの連携を強化し、多様な災害に備えていきます。

【訓練の様子】

研　修　等

◆　火災原因調査指導者研修会を実施

稲敷広域消防本部（茨城）

稲敷広域消防本部では、平成２８年６月１日（水）及び２日（木）、火災原因調査指導者を対象に研修会を実施しました。

火災原因調査指導者は、火災原因調査業務を指揮・監督する重要な任務が課せられているため、「調査の調整及び指揮」、「書類作成の指導及び管理」についての研修を行いました。

研修内容は、第一部として火災原因調査業務において指導者が成すべき行動などについての座学を行い、第二部では６グループに分かれ指導者役・判定者役などの調査員役を研修者に割り当て、火災原因調査プロジェクトチームがアドバイスをしながら、調査現場で使用する「巻取り黒板」等の資機材を活用し火災原因調査のシミュレーションを実施しました。

今後も調査技術の向上のため継続して研修会を実施してまいります。

【火災原因調査プロジェクトチームについて】

火災調査体制等充実強化を図るため、火災調査に精通している職員を指名し、製品火災や特異な火災支援等を中心に活動するためのチーム。

【研修の様子】

そ　の　他

◆　住宅防火モデル地区指定書交付式を実施

磐田市消防本部（静岡）

磐田市消防本部では、平成２８年６月４日（土）、同市大泉町を住宅防火モデル地区に指定し、同町自治会館で指定書交付式を行い、当市消防本部の成瀬廣高予防課長が自治会の代表者に指定書とのぼり旗を手渡しました。

全国的にも火災による死傷者は住宅火災による場合が多く、消防本部では、住宅密集地で火災が発生すると大きな被害が予想される地区をモデル地区に指定し、集中的に防火対策を実施することにより防火意識の高揚と住宅用火災警報器設置率向上を目指しています。事業２年目の今年については大泉町をモデル地区として指定し、式には同地区を管轄する消防団員及び女性防災クラブ員が参加し、地域一丸となって火災予防に取り組むことを誓いました。

【交付式の様子】

◆　危険物　決めろ無事故の　合言葉！

川崎市消防局（神奈川）

「危険物　決めろ無事故の　ストライク」で始まった危険物安全週間も終了したところですが、川崎市消防局危険物課では、危険物の事故を１件でも無くそうと、危険物事故防止の合言葉を作成しました。

これを危険物課で作成したポスターに載せて、市内に路線を持つ川崎鶴見臨港バスの協力を得て平成２９年３月末まで車内広報されます。

き：気を入れて定修後の運転再開
　　（定修：定期修理）
け：検査でも見落とす箇所はあるものと
　　疑って見る経験則
ん：「ん」安全に始める前の一呼吸
ぶ：部分だけ見ているときは、事故の元
つ：積み重ね、安全管理と安全教育

【合言葉】

【ポスター】

◆　消防本部の住所変更について

○　７３９０９　下松市（くだまつし）消防本部（山口）

新住所　〒７４４－００６１　下松市大字河内１９５０番地
※変更理由　庁舎移転のため
平成２８年３月２日から運用開始

国 等 の 動 き

消防庁通知等

◆　樹脂製消火器の不具合（破裂事故）に係る注意喚起について（６月１７日、消防予第２１１号）

予防課長より、各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

このたび、厨房内に設置されている樹脂製消火器（本体容器にポリエチレンナフタレートを用いた消火器)に係る不具合（破裂事故）が発生したとの報告が当該製品の製造者からありました。

現在、製造者において、顧客や販売代理店等に対してその取扱いに関する注意喚起及び厨房内に設置されている樹脂製消火器の回収交換が行われていることから、消防機関においても、取扱い等に留意するようお願いします。（事故概要及び当該製品の取扱い等については別添を参照）

また、当該事故の原因については、現在詳細な調査が進められているので、調査結果及び再発防止策に関する報告があり次第改めて通知する予定です。

都道府県消防防災主管部長におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して、この旨周知していただくようお願いします。

別添
２０１６年６月１６日
株式会社初田製作所

樹脂製消火器の破裂事故概要及び取り扱い方法等について

１．事故概要
⑴　発生時の状況
清掃用として業務用アルカリ洗剤が用いられている厨房に設置されている当社の樹脂製消

火器において、消火器本体が破裂することにより消火薬剤が広範囲に飛散する事故が発生しました。(計4件)。負傷者なし。

事故原因は、特定の薬品が本体容器に付着すること、及び消火器内に蓄圧されている圧力が応力として作用した影響により、本体容器にケミカルクラックが発生したことに起因していると推定しています。

⑵ 原因調査について

現在、詳細な原因の究明と再発防止策を構築するため以下について徹底的な調査を行っています。また、原因究明と再発防止策が講じられるまでの間、当該樹脂製消火器の製造は中止しています。

① 原因物質の特定
② 長期的な影響の評価
③ 再発防止策の有効性の評価

２．既に設置済みの樹脂製消火器の取り扱い等

⑴ 自主交換について

今までに販売した全ての樹脂製消火器の設置場所を確認し、厨房内に設置されている樹脂製消火器については、SUS製消火器への自主交換を進めています。この自主交換に関する情報は、弊社のホームページ等に掲載しています。

【交換対象品：厨房内に設置されている以下の樹脂製消火器】

① 粉末消火器（赤色） 型式番号：消第２６～５号 器種名：カルミエCM10EP
② 強化液消火器（青色） 型式番号：消第２７～４５号 器種名：カルミエCM2.5NN

⑵ 保護カバーの無償提供について

厨房以外に設置されている場合は問題ないと判断していますが、更にご安心いただくため消火器に被せる保護カバーを準備し、ご要望されるお客様へは無償でご提供しています。

⑶ 設置場所に関する留意事項について

樹脂製消火器については、素材そのものが有する特性に基づく留意事項として、本体容器ラベル及び取扱説明書に『有機系溶剤、強酸・強アルカリ類の薬品が使用されるまたは保管される場所に設置しないでください』と記載していますが、さらに、上記⑵の交換対象品以外の樹脂製消火器が、今後、厨房等に設置されないように注意を促すための措置として、「厨房設置不可シール」を貼付しています。

３．本件に関するお問合せ先

株式会社初田製作所 商品開発部部長 佐藤 淳也 (072)856-1288
不在時お問合せ先 品質保証・環境管理部部長 鈴木 剛 (072)856-1285

以上

○ 全文は、消防庁ホームページ（http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2806/pdf/280617_yo211.pdf）に掲載されています。

【問い合わせ先】
予防課
担当：巴、田中

◆ 消防庁ホームページ「全国メディカルコントロール協議会連絡会」の公開について （６月２１日、事務連絡）

救急企画室より、各都道府県消防防災主管部（局）・メディカルコントロール協議会事務局あてに次のとおり事務連絡されましたのでお知らせします。

全国メディカルコントロール協議会連絡会については、全国的なメディカルコントロール体制の情報交換と充実強化を図ることを目的に、平成19年度消防庁主催で神戸市において発足し、平成24年度からは厚生労働省との共同主催として、概ね年間２回開催しており、多くのメディカルコントロール協議会関係者にご出席いただいています。

今年度第１回は福島県郡山市において５月に開催したところですが、当日配付資料の情報共有を目的に、下記（省略）のとおり消防庁ホームページ内に資料を公開しています。

つきましては、貴都道府県内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）でメディカルコントロールに関わる消防本部及び関係機関（地域メディカルコントロール協議会を構成する機関を含む。）に対して、この旨を周知いただきますようお願いします。

○　全文は、消防庁ホームページ
（http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2806/pdf/280621_jimurenraku.pdf）に掲載されています。

【問い合わせ先】
全国メディカルコントロール協議会連絡会 事務局
救急企画室 森川救急専門官、新田救急推進係長

報道発表

◆　平成２８年５月の熱中症による救急搬送状況（６月２０日、消防庁）

熱中症による救急搬送人員数について、平成 28 年５月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。（以下省略）

○　全文は、消防庁ホームページ
（http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h28/06/280620_houdou_1.pdf）に掲載されています。

【問い合わせ先】
救急企画室
担当：森川、勝森、足立

※　消防庁各課室の直通電話番号は（http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html）に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。
週間情報への投稿は企画課へ！
TEL　03-3234-1321　FAX 03-3234-1847　E-mail：weekly@fcaj.gr.jp